

「資源ごみ処理施設早期移転のお願い」回答について

- ① 町田リサイクル文化センターに隣接する既設のビンカン処理施設を資源ごみ処理施設の稼働目標年度までには移転し、分散化を実現すること。そのためには、計画されている相原及び上小山田の進捗状況に応じて計画の抜本的な見直しも視野に入れ調整を図ること。

【回答案】

相原地区及び上小山田地区に計画している資源ごみ処理施設について、目標年度である2020年度に稼働ができないことを、大変重く受け止めております。

当該施設整備については、2018年3月に公表したとおり、稼働目標年度（相原地区2025年度、上小山田地区2027年度）を見直したところです。既存のビンカン処理施設の移転につきましても、資源ごみ処理施設整備の稼働目標年度にあわせて進めてまいります。また、施設整備に向けて、これまでと同様に分散化を前提とし、引き続き協議を進めてまいります。

今後も、精力的に施設整備と周辺まちづくりを進めてまいります。

- ② まちだ未来づくりプラン、及び次期町田市5ヵ年計画(2022年～)に、忠生バリューアッププランにもとづく各整備計画、特に峠谷地区および旧埋立地の具体的整備事業を盛り込むよう早急に検討を進めること。なかでも特に早期整備をお願いしている旧埋立地の交通公園および峠谷地区のソフトボール場等のスポーツ公園については、初年度から整備事業費を盛り込んでいただきたい。また同時に2020年に全面改訂が予定されている都市計画マスタープランにきちんと盛り込まれるよう必要な計画作成を前倒しでお願いいたします。

【回答案】

「忠生地域・バリューアッププラン」を踏まえて市が行う各事業につきましては、「町田市忠生地域ごみの資源化施設周辺地域整備推進検討委員会」において意見交換を行わせていただきながら事業化に向けて検討いたします。

中でも、「忠生地域・バリューアッププラン」の重点項目である池の辺、峠谷地区及び旧埋立地の上部を利用したスポーツ公園等の整備につきましては、段階的に事業を進めてまいります。

先行して整備を進める池の辺地区においては、「熱回収施設等の周辺施設整備基本構想」に基づき、2021年度の完成を目指し計画的に進めてまいります。

峠谷地区及び旧埋立地については、「町田市忠生地域ごみの資源化施設周辺地域整備推進検討委員会」において意見交換を行わせていただきながら、町田市都市計画マスタープラン及び町田市の2022年度以降の計画に位置付けるために、市として考え方を整理していきます。その上で、事業スケジュールを示し事業化に向けて取り組んでまいります。